

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成28年8月3日
タイトル	学校に「くわい」を植えたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成28年7月15日（金）福山市立川口小学校5年生87名が、学校にあるミニ田んぼへ「くわい」を植える農業体験をしたので取材しました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培しており、農家の方から「くわい」栽培の話を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでおられます。

先日、水土里ネット福山組合員の種本守雄さんのほ場でくわい植付けを見学し、くわいの苗や植付けの仕方を学びました。今度は、学校のミニ田んぼでいよいよ「くわい」を植えることとなりました。

1、2時間目に1組から順番に植付けを始めました。JA福山市の川口グリーンセンターから取り寄せたくわいの苗は、芽が出て矢じりの形の葉が出ているものもあります。先生から「芽が伸びているので、折ってしまわないように気をつけて。根っこも土の中に入れるようにしっかり土を被せて、浮いてこないようにしっかりと押さえましょう。」と話され、いよいよ植付け開始です。



恐る恐るミニ田んぼに入り、土の感触に思わず「うわあ」と声があがります。他の学年は授業中なので「静かにしよう。」と言うのですが、こけそうになったりすると、つつい声が出てしまいました。

一人一つ苗を持ち一歩ずつ進んで植えます。片手で苗を持ち片方の手で土を掘って、その穴に苗を入れすばやく周りの土を被せます。

水が濁って手が見えないのですが、上手な子はあつという間に植えて苗がピンと立っています。中には、手探りで一生懸命土を掻き分けてやっと植えたと思ったら、少しすると苗がプカプカ浮いてしまい先生が植え直しておられました。



うまく植えられるかな？手探りで難しい！



みんなで植付け、楽しいな！

慣れない作業に子ども達から「腰が痛い。」と声があがり、先生が「一本植えただけなのに、何を言っとる。この前見学した種本さんは何本植えたと思う。あの田んぼだけで4000本植えちゃったんで。」と言われると子ども達から「ええ、すごい！」と歓声があがりました。実際に植えてみて、植付けの大変さが身に染みたようです。



たくさんできるかな？

いろんな調理方法を考えて、みんなで料理して食べようね。



休憩時間に通りかかった他の学年の子ども達が、くわいの苗を見てすぐに「くわい」だと気付きました。特に4年生は、来年は自分達が農業体験をするので興味津々で植付けを見ていました。くわいの農業体験が川口小学校に根付いていることを実感しました。

川口小学校では、これから校庭でくわいの成長を観察します。10月には出前授業を開催し、くわいについて各方面から学び、冬には収穫して自分達で栽培した「くわい」を使って調理をするなど様々な取組みをされます。

水土里ネット福山は、こうした取組みに協力し子ども達に農業を通じて「ふるさと」の素晴らしさを伝えられるよう21世紀土地改良区創造運動に取り組んでまいります。